

平成26年度



京都市立嵐山東小学校



学校教育目標

育てよう 子どもの思い・思いやり

学校教育目標の具現化に向けて、日々精進する主体者は当然のことながら本校の教職員である。前段の「育てよう」はそのことを自覚的に示したものであり、学校自らがその意思を表明しつつ、保護者や地域社会にも積極的な理解と協力を求める。

「思い」は主体的に考え方行動する児童のイメージであり、根底には自立と自律を意識している。自立は他からの支配を受けず、自分の力で確かな判断ができるこであり、望ましい行動のもとになるものである。また、自律はどのような状況でも自分の行為を主体的に規制できることであり、自分自身の立てた規範に従って行動する力に通じると考える。

「思いやり」は狭い意味では、相手の立場や気持ちを積極的に理解しようとする心であるが、さらには日常生活のあらゆる事象に対する豊かな想像力を意味している。それによって児童には、生活に根ざして考え、より望ましい人間関係を築きながら、自らの課題を解決しようとする気概を持ってほしいという願いを込めた。

めざす子ども像



考え方 自分で
伝えよう 言葉で
受けとめよう 相手を



通常、めざす子ども像は学校教育目標を受けながら児童のあるべき姿を表現したものが多い。しかし、本校の児童が自らの望ましいあり方を理解するためには、児童に向けたメッセージとして平易な言葉で伝える必要があると考ええてこのような表現にした。

「考え方 自分で」は学校教育目標の「思い」に通じる主体的な自分をめざすことであり、「伝えよう 言葉で」には本校児童の課題である望ましい人間関係を言葉によって育みたいという願いを盛り込んだ。「受けとめよう 相手を」は伝えられたら自分がどのように応えるかという中段を受けた内容であると共に、学校教育目標の「思いやり」を子どもの立場で意識させたいと考えこのように表現した。

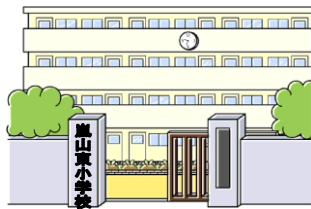
めざす教職員像

確かなビジョンと力量で
仕事と学校にゆるぎない誇りを



学校教育目標を受けて自らの立場や役割でどのようなことができるのか、自分なりのビジョンを持つことが重要である。そして、専門職としての力量、子どもへの愛情や確かな指導力、豊かな社会性や発想力を高める努力が必要である。

また、そのような姿勢が教職員として仕事に自覚と誇りを持つことになると同時に、自校を愛することに繋がり、児童の自尊感情や母校愛の育成にも大きく貢献すると思われる。



めざす学校像

なれ 教育・文化の担い手に
山紫水明の地の小学校として

京都市は「文化都市」「国際都市」としての多様な特性を持っているが、嵐山東小学校はその中にあっても際立って自然環境や歴史的に恵まれた環境と言える。本校は地域の教育と文化の担い手であることを誇りに、次代と自らの未来を切り拓く子どもの育成をめざすものである。



平成26年度の重点項目

- つけたい力を明確にした「言語活動」
- 自律心と責任感の育成をめざした「協働活動」

学校教育目標の具現化に向けて、本校の今年度の重点項目を設定した。京都市の「学校教育の重点」と合致する内容であるが、本校の独自性を生かした具体的な取組を展開したい。

■つけたい力を明確にした「言語活動」

昨年度に引き続き、すべての教科・領域や各行事で、「話すこと・聞くこと・書くこと・読むこと」を重視した指導を推進するとともに、子どもの姿の変容を求めて「つけたい力」を明確にし、ねらいと計画を持って言語活動を実践する。

■自律心と責任感の育成をめざした「協働活動」

学校のきまりや社会の基本的なルールを守る態度の育成を引き続き徹底するとともに、子ども同士が進むべき目標を共有し、共に力を合わせて活動する場面を設けることが大切になってくる。他者との関係を意識して、感情を自制したり、自己の果たす役割を考えた責任ある行動をとったりするなどの経験の積み重ねにより、社会に通用する正しい判断力や確かな価値観を育むことをめざしたい。